

兵庫庫自治学会平成 21 年度  
第 2 回コラボレーション・プロジェクト  
「子どもたちの未来のために  
自尊感情をどう育むか」

日時：平成 22 年 1 月 23 日（土）13 時～16 時  
場所：兵庫県立男女共同参画センター（神戸市）  
参加費：無料

基調講演：13 時～14 時 20 分

○講師

中村和子（小野市ヒューマンライフグループ課長）

パネルディスカッション：14 時半～16 時

『自分が好き！』な子が育つ地域づくりのために」

○コーディネーター

勝木洋子（神戸松蔭女子学院大学教授）

○パネラー

中村和子（小野市ヒューマンライフグループ課長）

吉川博美（兵庫県男女共同参画推進員地域連絡会  
議・阪神南代表）

真田由美子（ドマソーラ神戸アンケートグループ）

主催：兵庫県男女共同参画推進員神戸地域連絡会  
議（ドマソーラ神戸）

共催：兵庫自治学会 県立男女共同参画センター

## 1. はじめに

ドマソーラ神戸「アンケートグループ」では、2007 年 6 月に神戸市内の小学生を対象に「男女共同参加参画意識調査」を実施し、2009 年 3 月に結果報告書を発行。調査から、子どもたちとまわりの人たちの関わりが、子どもの自尊感情と大きくむすびついていることが見えてきました。

この結果をふまえ、他地域で意識調査とその分析をしてきた方々とともに、子どもたちのために、地域の大人はどのようにしていけばいいのかを話し合うためシンポジウムを開催しました。



## 2. 基調講演

「子どもたちの未来のために  
自尊感情をどう育むか」

中村和子

小野市に勤務しています。小野市は全国で初めていじめ等防止条例を制定した市です。この条例は、大人の世界を整えることで子どもの世界にもいじめをなくすことをめざしたものです。いじめをなくすにはいじめをする子をなくせば言いわけです。自尊感情といじめをするとの関係は深いと思っています。

私は 22 年間小学校で教師をし、その後、嬉野台生涯教育センターに移り、そこで、2002 年と 2005 年「家庭の男女共同参画状況と子どもの自尊感情について—小・中学生の意識調査から—」という調査をしました。

さて本題です。題にある「自尊感情」とは何でしょう？ 教育現場で同和教育に関わっていたとき、差別という壁に出会う前に、子どもたちが挫折してしまうというケースがありました。なぜそうなるのかを考えていた 18 年ほど前に出会ったのが、セルフエスティーム自尊感情という考え方でした。それまでは、差別を乗り越えるための力を、地域に誇りを持つことや、学力保障で身につけさせようとしていました。でも、トラブルを乗り越える力や、自分の存在は OK ということは教えてこなかったのではないかと、思ったのです。子どもたちに、ずっと「差別に負けるな、がんばれ」と言い続けてきたけれど、もしかしたら、がんばれの言葉の裏には、「今のままではダメ」という意味もあったのではないかと今は思っています。あるがままの自分を認めていくという自尊感情とは異質なことをしてきたのではないかと今でも自責の思いがあります。

学校では学習の中で、自尊感情を育む方法を考えてやってみました。ヒントカードを使って算数の問題を解くものです。子どもたち自身がカードを選択し、自分で問題の解法を決めることで、難しいことにもチャレンジしていきました。子どもたちは算数が大好きになりました。また、自分で、一生懸命やれたか、よくわかったか、とか、自己

評価もさせました。選択肢がある、自己決定させる、自己評価させる、これが自尊感情を育てるために大切なことと思います。

自尊感情の正体についてですが、人には、身体の栄養と心の栄養が必要ですが、心の栄養とはどんなものでしょうか。ほめる、安心する、ほっとするなど人によって答が違います。高校生を対象としたあるアンケートで、自尊感情の高い男子ほど暴力を容認したり、ジェンダー意識が強いという傾向が出ていました。この暴力を容認する自尊感情の高い男子は、一体どこをほめられてきたのでしょうか？ ほめることの難しさを感じますし、ほめる＝評価ということも受け手には影響があることも忘れてはいけないと思います。自尊感情というのは、高ければいいという単純なものではないようです。

それと、あるがままの自分とは何でしょう。あるがままの自分を認めることが、自尊感情を高めると言われていますが、一人でいるときの自分、仕事の場の自分、場所や他者との関係によって、「自分」はぶれます。自分自身の自尊感情はどうでしょう？ 案外考えたことがないと思います。自分をふりかえってみて、「いける自分」「いけない自分」どちらも認めることが、自尊感情が高いということです。ほめるということは、いい部分しか見ていません。いけない自分、なさけない自分も自分である、OKであると認めることができたとき自尊感情が高いといえます。

続いて、子どもたちについてです。自尊感情の高い子どもって、どんな子どもでしょうか？ 大人がコントロールしやすい子を自尊感情が高い子とはいいません。自尊感情の高い子どもはイメージしにくいし、どんな子なのかわかりにくいと思います。でも、低い子や危うい子を見つけやすいです。まずは、しんどくなっている子を見つけ、心の穴を少しでも埋めるために、どんな取り組みをしたらいいのかを考えていきたいと思っています。

喜田菜穂子さん（NPO法人マザーズサポーター協会理事長）が提唱する「自立型支援」は、自尊感情を育む効果的な方法のひとつだと思います。ヘルプとは問題解決の方法を教えることで、

サポートとは、当人に解決方法を考えさせるものです。昔、受け持っていたA児は、マラソン大会で毎年優勝していました。小学校最後の6年も優勝したいと張り切っていたのですが2位になってしまいました。その子に、「また中学校でもあるやん。よくやったよ。」と声をかけました。励ましや慰めの言葉の受け止め方は人によって違いますが、今だったら、彼に「なぜ負けたんだろう、敗因はなんだろう。」と聞きます。その問題の主体者は誰なのか、経験を自分のこととして考え、自分で受け止め、責任を取ることが自尊感情を育てることになるからです。子どもたちには責任を取る権利もあります。サポートとは相手を主体者にさせ、責任をとる権利があるということを教えてくれませぬ。自分で評価し決定させることです。

また、聴くということがとても大事です。傾聴は、相手の自尊感情を高める方法です。聴いてもらうことで主体者になれます。ドマソーラの調査でも、自分の話を聞いてくれる人がたくさんいればいるほど安定するという結果が出ていました。DVの被害者の方も、お話を聴くだけで回復していくことが多いです。こちらがああしろこうしろとは言いません。主体者が自分であることを知っていくことで、力がついていきます。

わたしは、「ノーバディズ・パーフェクト（完全な人はいない）」という言葉が好きです。自分は完全ではないと実感することでとても楽になれます。相手の失敗やミスを許し、自分のことも許すことができるようになります。

いろんな問いを投げさせていただいたのでパネルディスカッションで大いに話しあいたいと思います。



### 3. パネルディスカッション

『自分が好き!』な子が育つ地域づくりのために」

コーディネーター 勝木洋子（神戸松蔭女子学院  
大学教授）

真田由美子（以下真田）

子どもたちの男女共同参画の意識には、家族や学校、地域の環境、現代の社会情勢が大きく映し出されています。今回行った「神戸市小学生の男女共同参画意識調査」(※)でも、法や制度が整備されても、それほど男女共同参画の意識は浸透しておらず、いまだに、男女とも今までの家意識や習慣、性別役割分担意識にしばられている実態が見られました。また、兵庫県立嬉野台生涯教育センターの調査を参考にしたことから、同じ質問があります。同じ小学6年生どうしの調査結果を比較することにより、地域によって意識の差があることがわかりました。さらに、「困ったことは誰に伝えますか?」「うれしいことは誰に伝えますか?」「一緒にいるとホッとする人は?」等、私たち独自の質問の中で、悩みをぬいぐるみやペットに打ちあけると回答した子どもが数人いました。

子どもたちとまわりの人たちの関わりが多い子どもほど、自尊感情が高いことがわかりました。また、家のお手伝いをたくさんしている子どもほど自尊感情が高いことがわかりました。

調査の詳しい報告書「神戸市小学生の男女共同参画意識調査報告書」は、オープン情報図書室にありますので、詳細を知りたい方は、ぜひ見てください。

吉川博美（以下吉川）

2005年に「男女共同参画社会に向けての高校生アンケート調査」をしました。報告書はオープン情報図書室にあります。

2007年には、「高校生の男女共同参画と男女間の暴力に関するアンケート」を実施しました。この中に自尊感情という項目がありました。自尊感情の低い人は、女子のほうが男子より多く、ドマソウラの調査結果と同じ傾向です。また、デートDVという暴力を受けているのも、男子よりも女子が多かったです。この報告書もオープン情報

図書室にありますので、興味のある方は読んでください。

わたしは、塾の先生をしています。子どもたちは、昼は学校、学校が終われば塾にきます。裏の部分ともいえる塾での成績は自尊感情にも関わっていて、偏差値が高いと自尊感情が高いようです。そうでない子は親に「がんばらないと、この学校に入れなよ」と叱咤激励されています。親自身の自尊感情が、子どもに反映していると感じます。塾は小中学校受験に関わっていて、成績という価値観がある世界です。だからこそ、成績に関係のない、学校や塾の先生とは違う価値観を持つ大人との出会いが大切だと思います。

勝木洋子（以下勝木）

子どもたち自身が、自己決定、意思決定しなくても大人がルールを敷いてしまっているという問題、自尊感情が高いと暴力的なことまで容認してしまうという問題もありました。

中村和子（以下中村）

成績は相対的なもので、中学校ではトップクラスでも進学校の高校に入ったら順位が、がくんと落ちたりします。なので、成績でもって自尊感情を持つことは、とても危ういといえます。

親と先生にしか出会わない子どもが多いようですが、地域の方々、第三の大人との出会いが、ほんとうに大切です。地域で子どもを支援している方が、子どもを思わぬところで支えます。

勝木 暴力と自尊感情との関わりについてはどうでしょうか。

中村 自尊感情の危うさを感じています。自尊感情の高い男子に暴力容認の傾向があることに関しては、まだまだ男子には力信仰があるということだと思います。力があることが男としての肯定メッセージと植え付けたのは大人の責任です。

真田 今までの話をうかがっていると、アンケートにこたえてくれた小学生は、まだまだ純粋だと思いました。中村さんのお話の中で、自尊感情をはぐくむために、「選択肢、自己決定、自己評価」という話がありました。実はアンケートの自由記述欄に「自分の入る学校くらい自分で選びたかった」「親がこの中学校に行け」と、進路について書いている子がいました。選択肢という点で

は、子どもとの話し合いはせず親が進路を決めてしまっているんだと思いました。

勝木 地域に何ができるのか。地域と子どもの関わりではどうでしょうか。

真田 調査では、困ったことやうれしいことを話す人が多いほど、自尊感情が高いという結果でした。家と学校、塾だけではなく、いろんな大人と接する機会があればいいと思います。自分も入っている「NPOと行政の子育て支援会議」の活動が広がってきています。地域ともっと繋がりたいし、地域の大人と子どもたちが直接出会う場を作りたいと思います。大学と地域と子どもの繋がりという点はどうでしょうか？

勝木 大学は生徒に来てほしいので、キッズオープンキャンパスというのがありますが、これはイベントなので、ちょっと違うかもしれません。子育て支援として、ひろばがあります。プログラムのないプログラムとして、保護者の方にほっとしてもらったり、友だちをつくったりする場にしたと思っています。

吉川 芦屋の美術館でも地域活動をしてきました。地域のボランティアの方々や大学生たちの参加もあって、伝承遊びやもの作り、いろいろな催しをしています。これは、子どもが第三の大人に出会う場として広げていきたいと思っています。

勝木 異世代の交流も大切ですね。社会活動の中でいい大人にめぐりあう機会を作っていけたらと思います。自分の子どもでなくても、「あなたが生れて、あなたがいてくれてよかった」と伝えられたらと思います。最後に、まとめの発言をお願いします。

中村 そもそも子どもたちに選択肢が与えられていないということを感じています。自尊感情という観点からも、まずは子どもの話を聴くことです。主体者は子どもであるということを、大人が、支援者や指導者が持つだけで、言葉は変わってきます。

吉川 中村さんの言うとおりのと思います。でも、学校や家だけでは無理なので、地域にゆだねることも大切だと思います。芦屋では地域の子ども向けイベントなどの情報をまとめて見やすいミニコミ紙にして発信しているNPOがあります。一覧で、

今日どこに行こうかと選ぶことができます。

真田 今回、調査結果をまとめるにあたって、仕事を終えてから夕方に会議をしていました。すると、つい、早く帰って夕食作らなくちゃ思っていたんです。家族に協力を得ることを求めたらいのに、母親である自分がしなくちゃならないという思いこみがありました。自分の思いこみや、自分自身の言葉の振り返りも大切だと思いました。

勝木 三人のさまざまな体験とデータをもとにした話をきき、社会の中で大人の責任や役割について考える機会にすることができました。



#### 4. おわりに

約 50 人の方々に参加。基調講演の中では、受講生同士で何回か意見交換をして、「自尊感情とは何か」という問題を深く考えることができました。

参加者の方々のアンケートでは、「時間不足に感じた」「教育現場はとても大変である」とのご指摘や、「自分自身の自尊感情を高めたい」「地域の大人としての活動をしたい」などの感想がありました。

「子どもたちの未来のために 自尊感情をどう育むか」という大きなテーマに、真剣に向かい合うことができました。

(※)「神戸市小学生の男女共同参画意識調査」は、兵庫自治学会グループ研究応援事業「子どもの男女共同参画意識と自尊感情について」として調査に基づく報告書を作成しており、兵庫自治学会ホームページ (<http://hapsa.net/group.html>) の学会員専用サイトからも閲覧可能です。